

[illegible]

問題の綿糸布

先物賣買

法律上有効也

三品取所以外に於ける綿糸布は、先
求取附置は二十七日朝大阪區

効なるかの解決は紛亂せる綿
界に大影響を與ふるものなり
一般に注意せらるししが大阪軍
會對廣瀬二一郎氏の「綿糸布先物
契約不履行に依る損害賠償」四

修はすや、而も我信蓮は民間其
 と今之を常事の如く考へ、
 能はざる所にて、山東省に於け
 日本人の生命の安んたること苦
 以上は、此青銀は由來支那政
 能はざる所にて、山東省に於け
 日本人の生命の安んたること苦
 以上は、此青銀は由來支那政

屋にて、一寸明晝の蓮品を見出
 値如何と問へば三十圓と申候、
 城にては數百圓と申す品に候、
 生垂延三尺、暫く去る能はざり
 も、懷中と相隠し、前迄不安の爲
 財布の紐を解かずして去りしは

日本の援助を條件として、極東問題に關する、總ての權利は、日本に譲歩すべしと云ふ。其の爲に、何たるは知らず。然るに、櫻田閣にして、天高馬肥、櫻田閣を見る。坐ち炎起す。

婦人畫報
新年特別
子供（十字語）の生れた喜び（百行以内）
子供を亡つた悲み（十字語）
子だから號懸募

だから號懸

た喜び(十字語)
た悲み(百行以内)

式等五圓宛に參等参圓

◎旅の娘の印象

川柳に現れた嫁姑

女中に話し聞かせる

人々世話した夫

しぐれ (笑園用)

長篇小説 須磨子

風水害地を慰問して

美人川勝歌蝶

禍の門

室内の色の配合

危険小児の體質

心臓病の話

十一月號 (一期三十三號)

東京京報館代印 掛勢四十九郎

少年人界

京威府明治町二丁目（本町江川橋より入る）電話三七八番
 内科
 小兒科
 入院隨意
 中島
 醫院
 院長 中島貞信

[illegible]

新時代の婦人の修養(松本孝介) 新食物の研究に耽り、國科博士
生活難と物質調節策(山田一雄) 國科博士
樂しき生活と苦しい生活(宮田修) 有効な食事法(鹿野明子)
主婦の友会

賣一
防水布マント各種
魔法瓶及中瓶取替
目
店具

靴製造販
皮より強い値の安い
專賣品柳製靴
日、丸國旗附屬品
毛布二枚續き
三間五十錢以上上物色々
丁一町本城京
用行旅木高
四三一路馬

刊 朝日九十二
(頁八てせ併刊夕朝)

星
浦

大谷光瑞師

に比すれば、遊樂名物の風たるは、末代佳公の在世中なり。即ち大正二年の初夏、病氣衰へたる爲め、湖戸内航游の途次ありき。當時一首を口占して、師に贈りて曰く、

空雲染衣松微散、清鏡半日世非。
非、來嶺首望三山上、黑霧遙遮挾雨飛。

此句は全く實際を描きたる也。と思ひや、諷を作して、間もななく、本願寺事件出来せんとは。爾來師と恒に紙上に相見、心上上と相見たるも相ひ面せざる三年、昨年秋に於て、傍人は唯だあり、此の期間に於て、放浪の快遊を事とし、思はむ。されど師が如何に精神物質、肉体的、外的の困厄と歎び、痛感と歎び、懺悔と歎び、煙囪と歎び、且つ歎びつゝあるかは、同相見て、師が兩翼の霜に、微せらる。師意氣自若、勢力正さぬ。恍惚、僂偻、皆て人の機を愛する。所を、所を、知んべし。に豈に一如の同情なる可んべし。

國民飛行協會長 長岡外史中將講演

云ふ事を痛切に感じて来た。英人とは個人性の發達した國民で、如何なる苦痛にも堪忍し忍耐力を有して居る。日本では戦争の結果として、豪奢な生活を爲すものも出て來てゐる。彼方此方にある標子だが、向うは會社銀行の如き、親王は無配に甘んじて居るといふ實況である。兵士は戰場に於て困苦缺乏に堪へるのみならず、又家に歸りては食ひたる肉に打撃つて居る。食ひたる肉は英國は馬鈴薯又は金銀が不足であるが、獨逸は穀類又は金銀が不足である。是に於て獨逸國民は食糧をさへ賣つて来た。近頃は勢力の増進が望には裏心から敬服する異情がない。獨逸は一年の中二箇月不足であるが、來て来たから英軍は大分強くなつたのである。

又吉利にせよ佛國にして居と云ふ、英國でも肉は

問の沿國なる。眞は現任
に庶幾じ。
於て、大谷光瑞師を
御盡力を願ひたい。同時に此
の効用を問出し、舌用し、世

[illegible]

遊戯に一回一人が三百六十歩しか
 得られない。據の如く如何なる因
 難にも打勝つて居るのであるから
 戦後に於ける平和戦には充分獲得
 の力を養つて居るのである。其上
 亞米利加は非常に金を儲けて居る
 昨年は百億の輸出超過、富の増進
 は驚く可きものである。米國は委
 戦するに當りて二百億の豫算を可
 決し、飛行機のみは三百六千萬の
 巨額を投じ、艦隊は七百萬噸を増
 す大計畫を定めた。而して、製造
 工場の如きは大いに躍つて居るも
 ら、今後、三年や四年掛をしても
 構はない、東にはさう云ふ強い勢
 の國があり、西には右に述べる如
 き何事にも堪忍ぶ戦爭者があるの
 吾々は安閑としては居られない。

一時的の戰爭に敗れるのは意外に
 復が速かに出来るが、平和の戰爭
 に敗れるのは實に苦しい。之は
 友人達は、

普に清林杜老詩。如天夫。誰
 步遙遙。地。誰。心。有。花。共
 梅含。瘦。影。在。且。待。着。風。遠。水
 坐。西。風。卽。小。樓。信。欲。似。舊。足。近
 相。送。勝。勳。長。使。降。一。天。如。水。雁。

雲山 白鶴

誰 (108)

布施生譯

二人は保部家指して走つた
 の近傍へ來ると利介は頼太郎
 といひおい短銃を持つてつか
 つてゐる。さあ遣附けやう。

一と言つたかと思ふと彼は復
 足を踏んで「いや」とは老母

誰

布加生
家指して走

時から他人の手で育てられて誰も
 僕を認へてくれる者がなかつたか
 らでも有りまじやうか、今になつ
 てこんな厄難者になつてしまひま
 した。母は僕が始めて母様にお目
 懸つた時も最早惡縁は付て廻つ
 て今更何とも仕方がなかつたで
 す、母様に優しくして戴いて其胎
 だけは眞正に生れてから覺のない
 嬌しきでしたけれど、それでも僕
 の性嬌は直りません、僕は一日整
 に放蕩を始めました、僕は
 言ひ出して頼太郎は不圖話を斷つ
 た、頼太郎の言語の端々には如何
 にも鄙俗の思に堪へない有様が露
 々とはれて夫人はそれを遮る暇
 もなく、宋には恥度思ふない悲し
 い事を言出すに違ひないぞ知りつ
 ても黙つて聞いてゐる外は無かつ

「お、それは、頼太郎はそう思ふよ。俄に悪態胸が据つた、實際彼にこう云ふ性質があるのを看ぬいたればこそ利介は頼太郎に此一役を振當てたものであつた、頼太郎は名優の所作であるのは往くまいと思はれる程悲しげな顔容をして聲を洗へせ、母様も今度で僕の苦勞はお仕舞でしようよ。」頼太郎がこんな調子でこんな事を言ふのは從來にない事である、夫人は驚いて彼の傍に整着つて坐込み頬を擦付けながら、
「どうしたの」と心持強固聞いてみた。
頼太郎は愈々勢を沈まされて、「母様僕は歌目でするよ。母様や文様の字と呼ばれる質屋はなりません。夫人は之には頭を振つて承認を拒んだ。頼太郎は情は一言を續けて、
『いね、僕は自分でよく知つてます、僕は悪い人間でも馬鹿でもありません、僕は時々自分が分らない』

は厭だ、己は斷つて馬鹿判介は獲懸りそうな顔をして怒つた、頼太郎は死物狂ひになつて門へ飛込むと玄關の呼鈴をきげに鳴らして出て来た次女と奥様へ「おゐて、お部屋にいらつて下さいませ。」と云ふ返事を聞くとも後を見ずにが儘附子を駈上つた。

寢れた顔は洗へない眼を光らせて、僅しく、飛込んできた頼太郎の姿を見るに夫人は驚きあざうしたのゝと立上つた、其聲には母の慈愛が溢れる程に臨つてゐた。

頼太郎は電氣を聞くや頭の方から分るの先まで電氣で打たれたやうに今度こそ思はずに賓客のやうに上へ来てみるゝ自分にもうたへて

增戸 銃砲店 764

銃砲火藥 倣具

支店 太田 公州 (電話三三九二番)

抗砲火藥獵具 760

支店 太田 公州 (電話三三九二番)

抗砲火藥獵具 760

支店 太田 公州 (電話三三九二番)

增戸 銃砲店 764

銃砲火藥 倣具

支店 太田 公州 (電話三三九二番)

抗砲火藥獵具 760

支店 太田 公州 (電話三三九二番)

抗砲火藥獵具 760

支店 太田 公州 (電話三三九二番)

[illegible][illegible]

寫真部

電話三三九番



電馳千里——
信用と名聲を有し
能く多年の乗用に向ふる

クリスト號
ケイオー號
自轉車は

諸官衙及著名の會社商店より
多數の御買上の
光榮を擔ひ居り候

活動の人に
堅牢で正確な
新型の時計！

貴婦人方に
美と威厳を高
める装身具！

さては種々の最新流行の
眼鏡各種潤澤に著荷仕候

時計部

電話長二六二番

御散策に――
御旅行に――
御遊山に――
今盛んに愛用せらる
寫眞機各種及
附屬材料
豊富に新輸入致候

部車轉自
番●八四話電
店商居織元
店支城京會商澤大都京

朝鮮の捕鯨業

木迄千五百頭を抽擲する見込なり
長箭里は京元線に通じ交通頗る便
利なるを以て漁夫の批地を樂む者
多し大黒川島に

内人の獨占的事業に屬し居り
 朝鮮の特産たる明太魚の漁業は
 手にして風土の關係よりして内
 秋期大に安東縣

▲安東師退多敗を招待し祝賀會を開催すべく
準備中なるが午前は聖恩拜賀式
と社來の冊子
午後には外人を招きし内
に駐

栽培の成績不良なるも尙數百
出品を見に至べしと▲合名會
箱及び木材の保管並に
附帶事業なりと▲

製材部 木村に關す 森安三郎氏、民團議長中野初太郎
 行會支氏、手塚正金、久我朝鮮支店長、渡
 街永安

い 越死 安東縣衛市
住硝子製造桑寺田巳

[illegible]

女優の色香に溺れたケ氏の昨今

言ふに忍びざる者があ

日本人として大いに注
彼等が依然として日本

◆ 上下の事態

●京城乗馬黨の遠乗り

方賀總督府醫院長、市川

參謀副官其他將校六十餘

主權州學事觀察

十八日午間假臺此念提下石階

100

A large group photograph of the crew of the USS Albatross, taken in 1892. The crew members are arranged in several rows, wearing dark uniforms and caps. The ship's structure is visible in the background.

THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS

A black and white photograph of a group of people on a ship's deck. A man in a dark suit and hat stands on the left, looking towards the camera. A woman in a dark dress and hat stands in the center, looking away. Another person is partially visible on the right. The deck has a railing, and a tall mast or pole is visible in the background.

るが斯くて一行は仁川水道送

● 宣明三市市要之

段數は各局合計四百三十九口

部分終了せり因に電氣加入最

きは京城を最とし近來軍營の諸事業の興起等により平壤羅

陰曆二月きふと二十七日より京都に

京都の秋を彩る美術院派の展

十一日 天長節 御禮 日 上 夕 十一
四日 迄同公園府立圖書館に於

會の由にて先般東京開會の
品無かりし會 墨海原良三郎

●開校祝賀

●菊花品評會

本年四月開校して現在男女兒童五百數十名を有する東大門小學校開校式は愈々十一月三日開校にて舉行する由之れと同時に同開校式を感戴する意味にて菊花品評會を開催する事に決定し居れるが場所

●古洋服が好い
値に賣れる
當業者は愚かな事を云つてゐる
暴風に次ぐに暴風を以てした洋服類は一時昨年末に比し三割五分の騰貴を見たが最近英國輸入生地が入荷したため

天長節奉祝
大提灯行列
来る三十一
日午後六時

市民諸君の振つて参加を希望す
市民奉祝會

山下伍遣、酒見理平

（三）等若しと出品者は十月三十一日及び十一月二日の兩日中に入札を納り十一月四日午前九時午後五時迄服の縫製に供し十五日五日出品物引取の順序となす

但し運搬費は自費とし保管の方法等に就ては主裁者即ち東京府及び石原監督兩氏に於て、市井販賣の方法を賣る山は定めてその出品と共に當日は感覧を呈す事なるべし

三十七百餘賊擄上

即上町代書家蔡謙識云は實父斗魁の實取を盜擄し大平四年十月以降本年七月末迄に遠郡都未修徳洞郭原社へ同郡城西面壯蔡覺魯等の兩名を手先に使ひ城郭公山面所在の土地十三畝を奪ひて其の地を以て保土軍をたす

昨年初冬に比較すれば實に五割乃至十割の希値を呼んで此元古洋服成金も出て来れまじき状態である、此れに就いて某當業者曰く

底三四月頃仕込んで置くから新物の購買に際して探査上では儲けて居るが昨今は品物の地底で大分苦しめられて居る生地の販賣に就いて一般の當業者が古洋服の間に合せるから自然拂物は無く東京大阪方面からの移入は探査上行はれ手頃な品は殆んど無く殊に最近滬方面から

商人が乗込 来て古洋服の買集めをして居るから強氣の材料は豊富である相場は古物大日に一定して居ないが細サジの背皮でも一寸したことになる、二、三

十開、フロックコートなど

大邱上町 龜石 磯太郎 上三 百
町 金貨 葉中山 柳三 松より 前俵

上検査局へ送られた

亂暴三人男

この扱扱の仕様が可笑い
より三人にて蹴殺したこ

何れも廿三日高敞署の
目下取調中なり

當業者は、想
はつてゐる。

一、ヒトは一時ヒト作年ヒト末ヒトに比し

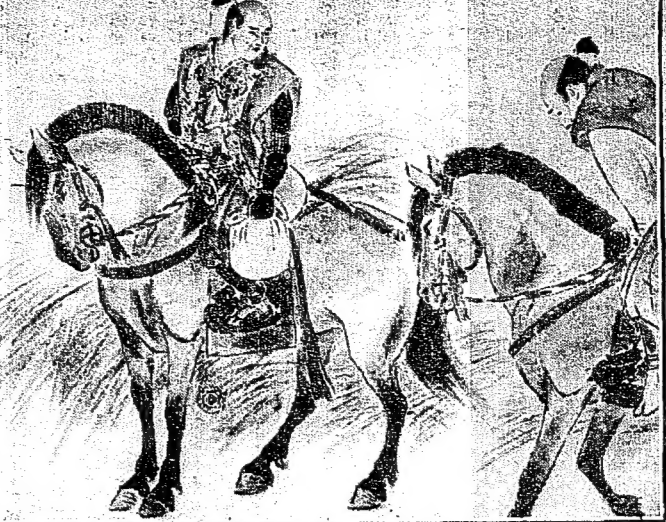
少したのも束の間又再

祝

來^{きた}る三上

櫻御殿

第五十三回 大坂霞の家主人



三左衛門の血(十)
「此の様に、何事かあるか」
「奥方様へ、お尋ね願ひます」
「さういふ事か」
「さういふ事か」
「さういふ事か」

「さういふ事か」
「さういふ事か」
「さういふ事か」
「さういふ事か」
「さういふ事か」

「さういふ事か」
「さういふ事か」
「さういふ事か」
「さういふ事か」
「さういふ事か」

「さういふ事か」
「さういふ事か」
「さういふ事か」
「さういふ事か」
「さういふ事か」

「さういふ事か」
「さういふ事か」
「さういふ事か」
「さういふ事か」
「さういふ事か」

パール香油

パール香油

パール香油

赤玉ポートワイン

赤玉ポートワイン

赤玉ポートワイン

船名	目的地	出帆日	出帆時刻
大坂商船	大坂	十月一日	午後二時
大坂商船	大坂	十月二日	午後二時
大坂商船	大坂	十月三日	午後二時
大坂商船	大坂	十月四日	午後二時
大坂商船	大坂	十月五日	午後二時